

【調査の窓】

たばこと人生



たばこは今や私たちの生活になくてはならない嗜好品となつている。「酒は何とかやめられるが、たばこは絶対に駄目だ」というのをよく聞くけれども、余程意志の強い人とか、大病を経験した人たちでもない限り、なかなかたばこはやめられないらしい。仕事の合間や、食後の休みに、あるいは人や、車などを待つ間に、又映画のvariety、食堂、喫茶店などにおいては、今やたばこは殆ど必需品といつても過言ではない位である。

〔チヨット一服〕……なかなか良い言葉ではないか？お隣の中国でも、来客用としてお茶とたばこが付物になつている。例えば「你喝茶水吧」(ニョフツツアスイバー)、〔你抽烟捲兒吧〕(ニョフツツアインジョアルバー)などは〔你吃飯了麼〕と共に日常のあいさつ言葉の一つになつている。丁度日本における酒とたばこのようなものであろう。たばこは何といつても、退屈しのぎには最適の品物である。

そもそもたばこは茄科に属し、その原産はアメリカ大陸である。文献によるとメキシコのマヤ族文化の遺跡に残つているのが最も古いらしい。たばこの起源は相当古く、1492年11月にコロンブス一行がアメリカ大陸を発見した時には、その地方の土着民たちの間で、既に喫煙の風習があつたさうである。

この一行がたばこを持ち帰つて約30年後には、乾燥たばことして、欧洲各国に広まり、喫煙たばこの外にも臭たばこ、嚙たばこなどに用いられたのである。たばこはその後アジア方面に普及し、中国へは万寿年間(宋末)から入り、わが日本へは元龜の末から天正の初め頃(1572年頃)に、ポルトガル人によつて伝えられたが、天正の終り頃には、相当一般に普及したようである。更に慶長10年(1605年)には長崎へたばこの種子が輸入され、薩摩の指宿や、肥前の長崎地方において栽培されたのである。その後幕府は喫煙や、たばこの栽培を禁止したがなかなかそれが徹底せず、各地にたばこの名産地が出来上つてしまつた。

わが国におけるたばこの消費は、ますます増加の一途を辿つており、昭和23年度には96,857,187千本、金額にして約212,331,921千円というぼう大な数量が、ごとごとく煙と消え失せたことになつている。(昭和28年度日本専売公社業務概況報告)恐らく29年は更に1割程度増加したものと推定される。たばこ事業より上の利益金は、23年度に約1,608億円(27年度約1,462億円)で、その内政府への納付金は、約1,592億円(27年度約1,337億円)の多額にのぼり、毎年政府の大きな財源となつているわけである。(昭和28年度日本専売公社業務概況報告)

又たばこに対しては29年5月より、たばこ消費税が都道府県税の400、市町村税の115の二本立として創設され、地方自治体の新しい財源となつた。29年の徴税目標額は全国で約2,22億円といわれ、本県においては、県税のみで29年度に約1億8千万円の実績を取めたが、30

年度の目標は約4億1千万円となつている。(県税務課調)

本県においても昭和29年中には、紙巻たばこ約21億8千375万本(28年約20億246万本)、刻たばこ約1億7千789万g(28年1億8千233万g)という大きな数量が消費されており、この代金は実に46億2千232万円余にのぼつている。(日本専売公社水戸地方局調)これらの数字を総合すると、たばこの国民一人当たりの年間消費量は1,112本(昭和11年には844本)にのぼり、本県においては29年中に一世帯当たり6,178本、県民一人当たり1,142本を吸つたことになり、誠に驚き入るばかりである。ここに私たちが一年間に消費する米を1石(約10,000円)とすれば、本県人口が206.6万人であるから、その代金見積額約207億円となる。これに対したばこの代金約46.2億円は約22.3%になり、単なる嗜好品としては、ちよつと軽視出来ない金額であると思う。しかし国家に対する税金を納める考えからすれば、話は又別であるけれども……しかしこれだけのぼう大な数量を一体誰が吸つてしまうのだろうか？と一応疑問を持つものである。

たばこの中でも大衆性の強いゴールデンバット(48%)と新生(31%)の売行きが最も多く、紙巻たばこの約8割に達していることは大きな特徴である。これはかつて27年頃において光が圧倒的売行きを示していた頃に比べれば、やはりデフレの影響によつたものと思われる。

これらの数字を見ても明らかなように、たばこの国内需要は年々増大する傾向にあるので、葉たばこの栽培も大いに奨励されて来た。葉たばこの作付面積と収穫量は年を追つて増加し、全国で昭和7年に約3万4千町歩、1,616.2万貫だつたものが、28年には約6万5千町歩、2,712万貫と増加している。(農林統計表)

本県においても昭和16年に作付面積約5,650町、収穫量254.5万貫だつたものが29年には約7,000町歩(耕作農家は39,466戸)、336万貫と面積において約24%、収穫量において約56%も増えたのである。(日本専売公社水戸地方局調)特に本県は古くから福島、栃木、鹿児島等の各県と共に、全国でも有数の葉たばこ生産県であり、昨29年には面積、収穫量とも遂に全国第一位にのし上つたさうである。昔から御料たばこの水府葉は、くりと共に本県特産物のホープとして有名である。本県における葉たばこの収納代金は、実に33億9,173万5千円という大きな金額にのぼり、今やたばこは米と並んで農村経済の一大支柱となつているのである。ここで世界における葉たばこの生産量を見ると、年に約330万噸といわれ、特に米國、印度、中国、ソ連の4ヶ國がズバ抜けて生産が多い。

たばこの消費傾向を見ると、たばこはなまじ食物などより遥かに魅力を持つているらしい。たばこには有毒なニコチン(約2%)を含んでいて、どこをどう押して見て

も全く利益がない筈である。昔からたばこは「百害あつて一利なし」といわれているけれども、その消費はますます増えるばかりである。やはりニコチンが人間の身体の中にしみ込んで、更にニコチンと呼ぶのかも知らない？私たちはたばこがなくなると、一本々々貰い歩つたり、火鉢の中を掻き廻して吸い残しを集めたりするが、これはあまり良い姿ではない。人間もこうなるとちよつと移ましくなると思う。

最近医学の進歩によつて、たばこの含有するニコチンが、私たち人間の内臓に対し、相当の障害を与えることが明らかになつたそうである。特に肺臓や肝臓に対する害は少くないとの話だが……又ニコチンは消化液を作る働きを鈍くするとか？あるいは紙巻たばこの成分が、最近特に多くなつたといわれる各種のガンの発生に関係があるとか、ないとか？

いろいろとたばこの罪悪らしいものを取り上げて来たが、しかしたばこにも幾多の間接的利益を持つてゐることは否定出来ない。例えば深く物事を考える時には、先づ一服してからというのが普通である。たばこの害を説いている心理学者でさえも病氣以外の時は、殆どたばこを口から放さない位に、スパスパやつてゐるとのことである。たばこはやはり私たちの生活に多くの潤いを持たせ、セチ辛い世の中にも何等かの希望と楽しみを見出す力を養つてくれるかも知れない。又社交用、接待用としては欠くことの出来ないものになつてゐることは、万人の認めるところであろう。

人はたばこをやめると食欲が出て、体重も1~2メ増え、身体の調子が大変良くなつたというのを、時々耳に

するけれども、それは本当らしい。私たち人間はたばこがこれ程悪いことを知りながら、なぜやめられないのだろうか？そこにやはりたばこには、いえ知れぬ魅力と親しみがあるのであろう。私たちはあの薄紫色の煙りと、芳しい香りがどうしても忘れられないのである。そしてあのうつとりしたなごやかな気分が、全身の疲労と屈托を取り去つてくれるようである。

大体たばこの吸い初めは、大部分が友人の勧誘や年上の人たちの真ね事からである。すなわちたばこは、一種のスリルや、刺激を欲する若い年頃から吸い初めるのが普通である。昔軍隊生活をした人たちは、誰でも経験することだが、あの目も廻るような忙しい班内生活の中でも、人目を忍んで二、三服吸うあのたばこの味はまた特別である。又未成年の学生たちがよく便所やデツキなどで、たばこを両手で囲いながら、コソコソ吸つてゐるのを見受けるが、これも青年とたばこの深い関係を表現しているようである。

私たちの人生に深い結びつきを持つてゐるたばこについて、いろいろと談義をつづけて来たが、何事も良き程にして、充分その味を楽しみたいものである。そして国家財政の大きな財源を提供すると共に、デフレにあえぐ農家経済の合理化と向上のためにも、大いに貢献させなければならない。又従来わが国の製造たばこは、欧米諸国の製品に比べてや品質が劣るけれども、将来は品質の改善向上を図り、低廉なものを好む東南アジア諸国を相手として、大いに外貨獲得のために一役買つて貰いたいものである。(28年度輸出は約10億本で約5億6千万円)
(野上生)

本県におけるたばこの販売数量 (日本専売公社水戸地方局調)

	朝日	富士	ピース	光	新生	ゴールデン バット	紙巻たばこ計
昭和29年	27,383,380	617,800	124,232,480	301,437,960	631,222,220	1,048,858,380	2,183,752,220
百分比(%)	(1.3)	(0)	(5.7)	(13.8)	(31.2)	(48.0)	(100.0)
昭和28年	23,521,480	1,669,320	163,770,510	313,054,020	477,389,380	1,023,050,900	2,002,455,610
比較増減	3,861,900	-1,051,520	-39,538,030	-11,616,060	203,832,840	25,807,480	181,296,610 (+9.1%)
	みのり	ききよう	富貴煙	桃山	日光	刻たばこ計	合計
昭和29年	152,264,940	24,321,630	654,900	286,250	357,920	177,885,640	2,361,637,860
百分比(%)	(85.6)	(13.7)	(0.7)	(0.7)	(0.7)	(100.0)	—
昭和28年	157,740,330	22,760,010	1,394,900	203,900	233,000	182,332,140	2,184,787,750
比較増減	-5,475,390	1,561,620	-740,000	82,350	124,920	-4,446,500 (-2.4%)	176,850,110 (+8.1%)

(注) 合計には刻たばこの一瓦を一本の割にして合計している。